



2020年12月18日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾大学アート・センター主催
**「アート・アーカイヴ資料展 XXI 槇文彦と慶應義塾 I :
反響するモダニズム」展を開催 (2021/2/1-3/26)**

慶應義塾やハーバードに学んだ槇文彦(1928-)は、独立以来、世界的に活躍しているモダニズム建築家です。彼の建築は、近代的な造形だけでなく、建物を取り巻く環境を深く理解した上で設計する点を特徴としています。

本展では三田キャンパスと日吉キャンパスの建築をテーマとして、慶應義塾と槇文彦の関係性に焦点を当てます。長い伝統をもつ三田キャンパスや、それとは全く異なる歴史を辿った日吉キャンパスというそれぞれの環境に、槇がどのように配慮しつつ時代に適応した新しい建築を構想したかを、慶應義塾大学アート・センターの「慶應義塾の建築」プロジェクトでのリサーチをベースとして探っていきます。

1. 趣旨

槇文彦は慶應義塾や東京大学で学んだのちにハーバードに在籍し、1965年に槇総合計画事務所を設立して独立しました。彼はモダニズム建築家として、常にアクチュアルな課題に向き合いつつ、単にそれを解決するだけではよしとせず、建築周囲の状況に応じて柔軟に対応しながら社会に適合する建築を求めています。つまり彼の建築哲学は、建築そのものだけでなく建築物を取り巻く周囲の環境への深い理解に立脚し、都市と建築との関係、また現状だけでなく歴史的な脈における正当性といった「倫理観」をも含めた透徹した視線を特徴としているのです。それでいて決して環境に流されている訳ではなく、自身が課題(槇自身の言葉でいうところの「ロマン」)を設定することにより、どの建築物も槇建築としての同一性を有していることも忘れてはなりません。

槇は母校のひとつである慶應義塾大学においても多くの建築物を設計しています。慶應義塾の中心である三田キャンパスにおいては図書館新館や大学院校舎が、日吉キャンパスでも図書館が彼の手によってデザインされました。さらに湘南藤沢キャンパス(SFC)は全体が槇建築によって構成され、さながら野外展示場の様相を呈しています。

本展では慶應義塾をめぐる槇建築の展覧会の第一回目として、三田キャンパスの図書館と大学院棟、そして日吉キャンパスの図書館を取り上げ、慶應義塾と槇文彦の関係性を結節点として彼の建築を見ていきます。150年近い伝統をもつ三田キャンパスの歴史性と環境に、槇がどのように配慮しつつ新しい建築を構想したか、さらに同じく図書館を設計した日吉キャンパスとの違いにも焦点を当てます。これらの建築物と同時期に槇が担当した図書館旧館の改修工事も参考にしながら、慶應義塾という環境、そしてキャンパス内の他の建築と槇文彦の感性が反響することで生み出された建築物を、慶應義塾大学アート・センターの「慶應義塾の建築」プロジェクトの成果を下敷きにしながらい図面や写真を通してご紹介します。

小規模な展示スペースではありますが、つきましては、イベント欄等への掲載とご取材をよろしくお願いたします。

2. 開催概要

会場：慶應義塾大学アート・スペース

会期：2021年2月1日（月）～3月26日（金）

開館時間：月～金、11:00～18:00（土日祝日休館）

入場料無料（事前予約制）詳細は下記 Web ページをご覧ください。

主催：慶應義塾大学アート・センター

展覧会 Web ページ：<http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/artarchive21/>

3. 出品作品（予定）

- ・ 建築図面、建築写真
（三田） 図書館、大学院棟、図書館旧館（改修）
（日吉） 図書館
- ・ 三田キャンパス模型



（写真:新良太）

日吉図書館

〔設計〕 槇文彦 〔竣工〕 1985年 〔構造〕 鉄骨鉄筋コンクリート造、地上5階地下1階建



（写真:新良太）

図書館新館（三田）

〔設計〕 槇文彦 〔竣工〕 1981年 〔構造〕 鉄骨鉄筋コンクリート造、地上7階地下5階建

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社社会部、文化部等に送信させていただいております。

本発表資料のお問い合わせ先

慶應義塾広報室（豊田）

TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640

Email：m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>